

「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.20  
梅雨を謳歌するキノコたち Mushroom lively in rainy season」  
2020年8月3日

長かった梅雨がやっと明けました。関東甲信越ではちょうど「水の日」8月1日でした。え？水の日？ご存知でしたか？認知度は3%なので、知らなくても水に流して下さい、とは言いたくありません。ぜひ覚えていただきたい。制定理由は？実は渇水危機に見舞われる8月に、水の大切さについて考え、節水を心がけるためです。今年のように異常な大雨で水害に遭われた方々の事を想うとピンと来ないかも知れませんが、水は生命を育み、人間の生活にとって無くてはならないものである事には変わりありません。世界的には21世紀は水不足の世紀と言われています。日本では、2014年に水循環基本法が制定され、具体的な実施計画づくりと実行が進められています。命と生活、自然環境と深く結びついている「水」問題にぜひ目を向けて下さい。今年の8/1は、リモート(ZOOM)でオープンセミナー「いま水を考える」に514人が参加して行われました。「水」に魅了されている私も参加しました。

さて今回の主人公はキノコたち：人間や他の夏の草木と違って、長い梅雨を最も生き生きと過ごした生き物であったに違いない。芦花公園を歩いていると傘形、サルの腰掛け、風船形のキノコが目に入って来る。実は、キノコの名で知っているのは、松茸、椎茸、シメジ位なもので、検索した結果を写真に付けたが、確信がありません（お許しを）。

でもキノコについて面白いことを新たに知った。キノコは菌類の一種で、カビのような微生物ではなく目に見えるサイズの菌(子実体)であること、幼菌という成長中のキノコの存在、茸が語尾に付くのは、茂るように集まっている様に由来する等々。サルノコシカケは腐りかけた切り株に生え、幼菌期を過ぎると木の椅子のように固くなるという事実。何と、中国では靈芝として制がん作用などの薬効があるされ、珍重されているとか。食用のキノコ狩は、醍醐味と中毒の恐れが裏腹の、魅力と謎の深い存在のようだ。

【コロナ情報】

イスラエルのコロナ対策例と私見を述べる予告をしましたので、朝日新聞の切り抜きを添付しますが、私見については見送ります（この1週間に、感染者が急激に増加し、日本の対策について専門家と政府・各行政において熱い議論が展開中なので、そちらに目を向け、外国の成功事例が可能となった理由、上手く行っていない事例を参考にして、これからの進路についてお考え下さい。）

[http://sengawacx.com/LookNatureNo20\\_2020.jpg](http://sengawacx.com/LookNatureNo20_2020.jpg)